NPO 法人
ベーシックライフインフォメーション協会
会報第11号

協会製作のドキュメンタリー映画「空を拓く」の故郭茂林氏、台湾政府総統から表彰を受賞

故郭茂林氏が中華民国政府馬英九総統から日台の超高層ビル、都市計画等の建築設計の業績を評価されて褒揚令（表彰状）が授与されました。

この授与式が5月30日台北駐日経済文化代表處で、沈斯淳代表出席の下盛大に行われました。

表彰は弊協会製作のドキュメンタリー映画「空を拓く～建築家・郭茂林という男～」の中国語字幕版が完成したのを契機に郭茂林氏の表彰を実現したいとの声が上がり弊協会はじめ多くの関係者の尽力により実現したものです。

当日は郭純氏家族、協会役員、台湾科学技術協会役員など多くの関係者が出席しこの慶事を祝しました。

褒揚令の邦訳文は次の通り（中華民国政府の日本語訳文）

「台湾出身で日本在住の建築家・郭茂林先生は、強い意志と篤い真心、広い器量と見識を持つ人でした。台北工業学校建築学科を卒業し、志に向かってひたすら打ち込み、素直で学業優秀だったことから、推薦を受けて日本の東京帝国大学工学部に進学し、華やかな建築家人生が始まりました。建築の高さの制限を次々と突破し、日本の数多くの超高層ビルを設計・監督し、「巨塔の男」と呼ばれるようになり、群を抜いて顕著な成果を残しました。先端工法技術を国にいち早く持ち帰り、台湾で初めての超高層ビルである第一銀行本店ビルの建設に携わりました。台湾電力本社ビル、国泰人寿保険本社ビル、新光人寿保険摩天ビルなどのすばらしい建築作品の建造を監督し、国の現代建築史を豊なものにしました。その匠の技術は、絶妙なきめやかさを持ち、時論はその唯一無二の美しさを称えました。台北市の都市計画にも貢献し、先見性ある発展の青写真を描きました。信義地区副都心計画を立て、中華路地下街を切り開き、台北駅特定専用区を企画し、都市建築美学の雛形を作り、斬新で戦略的な計画を打ち立てました。これまでに中華民国建築学会建築賞章、中華建築金石章華人卓越建築貢献賞、僑務委員会三等華光賞章などの栄誉を受賞し、事業は栄え、名声も高まりました。その生涯は、建築設計の名声を得て、世代を超えて人々に恵みをもたらし、新鋭な数々の挑戦は、業界に新しい風をもたらし、台日間の友好関係にも貢献し、模範となりました。故人が遠くに往かれたことで、胸の痛みを禁じ得ませんが、政府を代表して賢老に篤く敬意を示し、ここに表彰致します」。

褒揚令公布日　中華民国105年4月29日

なお、日本における郭茂林氏は十九歳から八十九歳までの七十年間生活し日本を愛して台湾魂を発揮し、霞が関ビル、池袋サンシャインビル、京王プラザホテルビルなど最先端の超高層ビルの建設、新宿副都心再開発など日本の建設をリードし、昭和の歴史の一ページを飾っている。

父 郭茂林に褒揚令をいただいて

郭　純

この度は、亡父 郭茂林が台湾総統の褒揚令を授かる名誉を賜りました。

日本最初の超高層ビル「霞が関ビル」を初めとして、池袋の「サンシャイン60」「新宿副都心」など日本における超高層ビル・都市開発を主導し、台湾でも最初の超高層「第一商業銀行ビル」を皮切りに、「台湾電力ビル」、台北駅前「新光ビル」や「信義副都心」等の都市計画を実現し、日本・台湾 双方で超高層ビルの都市時代を切り拓いた功績が認められての事です。

褒揚令とは、故人となった人物を対象としてその功績を褒揚する文が総統令として公布（明令褒揚）されるものだそうで、その褒揚文の賞状の入った額を、台北駐日経済文化代表處で任期を終えて帰国直前の沈斯淳代表が主催して下さった伝達式で、遺族を代表して私が拝受した次第です。

褒揚令のきっかけは、本ベーシックライフインフォメーション協会の加藤美智子さんが、同協会で製作したドキュメンタリー映画「空を拓く 建築家・郭茂林という男」の台湾での上映促進を一年前に政府にお願いする過程で、郭茂林の業績を認識していただいたことから始まったと伺っております。台北第一高女〇Gの方々のネットワークの応援もあり、日本建築家協会のご推薦や、駐日および台湾の関係機関のご理解とご支援もいただいて、この度の栄誉に預かった訳であり、皆様に改めて深く感謝申し上げます。

父 郭茂林は1921年日本統治時代の台北市に8人兄弟姉妹の末っ子として生まれ、勉学運動ともに活発な少年時代を過ごしました。台北工業学校建築学科の恩師千々岩助太郎先生の勧めに従って戦前に東京に出て、東京大学建築学科で20年近く研究生活を続けた後、日本の高度経済成長の波に乗り、日本初の超高層「霞が関ビル」建設を主導する幸運に恵まれました。基隆の港から船に乗って日本に渡った台湾出身の一青年が、このような大役を担う事ができたのも、よき指導者に次々と巡り会い、志を同じくする大勢の仲間や協力者に恵まれたお陰と申せましょう。

東大で師事した岸田日出刀教授は、建築界に君臨する長老的存在で、アドバイスを求めて集まってくる訪問客の真贋を見分け、話の核心を掴んで的確な指示をする岸田教授の捌き方を間近に見ることは、単なる講義や読書だけでは得られない人間学の絶好の機会でした。

一方の吉武泰水教授は、岸田教授と対照的な学究肌で、建物の使われ方の調査分析の積重ねから日本の建築計画学の基本を確立した先生で、父は外側の見栄えでなく内面の使い易さを重視する建築設計の姿勢を学びました。

もう一つ東大研究室時代で得た財産は、卒業生のネットワークです。父が設計の実技指導をした学生は年々卒業して相当な数になり、父が研究室を離れる頃には、建築界官民各方面の要職につき始めていました。

このように20年近く東大の研究室で雌伏する間の蓄積があったからこそ、霞が関ビルのプロジェクトで一気に花開くことができたのだと思います。

日本での成功後、父は日本で培った技術や経験を台湾に伝えることに努め、高層ビルや都市のデザインを通して、台湾の超高層ビル都市時代を開拓しました。

初期の台湾の超高層ビルでは、日本から指導者を送り主要な建築材料も輸入に頼らなければなりませんでしたが、努力の結果 次第に技術も普及し材料も自前で賄えるようになりました。また45年前には工程師学会で台北駅周辺の鉄道地下化を最初に建議し、37年前に作ったマスタープランに基づいて信義副都心がつくられ、台北随一の業務商業核になりました。このような台湾の飛躍的な成長に貢献し、故郷に恩返しができたことは父の本望であり、満足であったと思います。

褒揚令伝達式が行われた代表公邸を含む白金台の駐日経済文化代表處の建物も、約30年前に父が設計をさせていただいたものです。

当時、自然教育園に隣接する環境に恵まれているが故に、建設に異を唱える周辺環境保護グループもあり、また文化財発掘調査のために一年近く工事が延びるなど想定外の困難もありましたが、このような障害を乗り越えて、必要な機能を収める空間を最大限確保しつつ、国の顔を代表する風格ある建築となるよう、精魂を込めて設計を行いました。「白金」の地名に因み、白いタイルの外壁の軒に金色の帯を巡らして、日本における台湾のホワイトハウスと呼ばれるような意匠とし、中華民国・台湾のイメージアップに些かなりとも貢献することができたのではないかと、生前自負しておりました。

その自分の設計した自慢の建物で、名誉ある褒揚令を授かるというご縁に、あの世にいる父も喜んでいることと思います。

最後になりますが母 豊子のことに少し触れさせていただきます。叔父が東大の建築学科にいた縁で父と知り合い結婚した母は、何にでも挑戦する積極的な人柄で、女性ドライバーが少なかった昭和30年代に免許を取得し、毎朝 父を職場やゴルフ場へ送るだけでなく、精神的な支えにもなっておりました。体調の関係で伝達式には参加できませんでしたが、今回の褒揚はこのような内助の功も含んで与えられたものと解釈して、一緒に感謝し喜んでいることをお伝えして、このご報告と御礼の結びとさせていただきます。

協会所属の柴犬（ゴー）災害救助犬として台湾へ渡る

5月5日、晴れの救助犬贈呈式が高雄市政府消防局で行われた。

かねて台湾高雄市政府消防局から協会所属の災害救助犬ゴーの譲渡要請があった。協会は設置目的の日台友好親善に照らして意義があるとして所有者等の承諾を得て救助犬ゴーを無償で寄贈することに同意し、災害救助や子供たちの動物愛護教育に役立ててもらうことにした。

贈呈式は消防局（局長陳　虹龍氏）の主催で、消防局長、訓練所長、台北・台中・台南の職員と協会の親善交流団一行五名（団長加藤美智子、杉浦警察犬愛犬訓練所長杉浦基之氏、訓練士伊藤愛里氏、協会会員中尾真理、鄧淑晶）のほか関係者マスコミなど約四十人が出席し贈呈が行われた。式典は陳局長の歓迎のあいさつに始まり、その中で『今日五月五日が「ゴー、ゴー」救助犬が「ゴー」レッツゴー！、縁あって今日のめでたい贈呈式を迎えることができたことは大きな喜びである』と語った。次いで加藤団長が式辞を読み上げて協会の目的と活動を述べ、人のみならず救助犬も加わって日台親善交流に資する意義の大なることを述べた。団長はまた湾生として親子三代にわたり居住した台湾とのつながりにも触れ、縁あって日台親善交流の手助けとなった救助犬贈呈の喜びを述べ今後の活躍を期待する激励の言葉を送った。陳虹龍局長から団長に感謝状が手渡されて式典が終わった。

ゴーは平成22年千葉県で江波戸つぎ氏所有の柴犬から出生。加藤美智子がこの犬を譲り受けゴー（大河ドラマ江姫に因む）と名付け、田代實範、江波戸つぎ氏の協力を得て育てられた。24年から杉浦警察犬愛犬訓練所で訓練を受け27年5月ＪＫＣの災害救助犬Ａを取得した。ＪＫＣの説明によると日本の登録されている救助犬は現在百八十一匹、日本犬はゴーを含めて二匹で貴重であるという。

ゴーは以後、高雄市政府消防局捜救犬訓養中心で生活しさらに訓練を重ねて活動に備える。この救助犬の訓練施設は充実しており地震で倒壊した建物や瓦礫の散乱する現場を再現した実習場や高度な服従訓練室、屋外の脚測訓練ができる広いグランド等を有し自治体の自前の訓練施設として他に類を見ない。

がれきは、訓練所の災害現場を再現したもの

訓練所の正門

灣生捐贈搜救犬 泛淚道別

台湾・「聯合報」（中華民国 105年5月6日 号で報道）

柴犬 ゴー

訓練士と救助犬

二十八年度総会開催、各議案を原案通り可決した

平成二十八度総会は六月十一日午後協会の会議室で開かれた。会員十三名のうち七名が出席し委任状提出者三名を含む出席者で審議が行われた。

まず任期満了に伴う役員の選任については、予ねて辞意を表明していた田代理事長の後任について協議が行われた。後任を引き受ける声のない中出席者からつぎの提案があった、事務分掌を明確にし各分掌ごとに責任を以て執行することにして理事長の引き続き留任を求めるものであった。これを諮ったところ異議なく全員賛成で決定した。また副理事長、理事、監事は従前通り全員賛成で留任を決定した。各役職者も継続就任を了承した。

次いで二十七年度の事業報告及び決算報告と監事の監査報告が行われ原案通り承認された。二十八年度事業計画は音楽会と講演会を二回開く、ドキュメンタリー映画「空を拓く～」のホール上映を九月の筑波大学開催を皮切りに努力していくこと等を決定した。

主な事業

「ドキュメンタリー映画・空を拓く上映会」

筑波大学主催台湾文化ウイークの一環として

九月十七日午後三時開演。

会場はBｉVｉつくば

各地域のホールで上映会実施

特に台湾での上映に努力する。

「文化交流会」

① フルートとバイオリンの演奏会

十月予定　練馬区公共施設多目的会議室

② 台湾問題講演会

十一月予定　練馬区公共施設会議室

「台湾人戦没者慰霊碑で慰霊を行い里山歩きを実施」

十一月三日　東京都奥多摩町川野の現地と同地内里山

事前の交渉と準備

日本の詩吟団体と協会が共催で詩吟剣舞詩舞大会を台湾で開催する事業

台湾の女子高級中学マーチングバンドを東京に招致する事業

会報の発行

協会報第十一号七月　第十二号十二月

二十八年度予算を原案通り決定した。

NPO・ボランテア団体の活動を紹介するパネル展に出展します。

練馬区立区民協働交流センターが主催するパネル展が開かれます。協会もこれに応募し、左記の通り展示紹介することが決まりました。

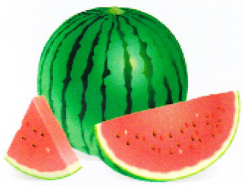
当協会の展示期間　八月八日から十四日まで

会場　ココネリ3階　区民協働交流センター

交通　西武池袋線、西武有楽町線、大江戸線練馬駅下車二分（駅の隣のビル）

活動内容の紹介　ポスター、会報などを展示し紹介します。

入場　無料



本協会の構成員

特定非営利活動法人

ベーシックライフインフォメーション協会

理事長	田代　實範	会員　下田長四郎
副理事長	浅田　豊	同　田中　依子
理事	加藤美智子	同　鳥羽　展維
監事	岡村　悦子	同　中尾　真理
会員	江波戸つぎ	同　星野　紫虹
同	郭　純	同　林　銀
同	川添ミチ子	

（平成二十八年七月十日現在）

会員募集

ベーシックライフインフォメーションでは随時会員を募集しています。

入会資格は特にありませんのでご希望の方は左記の連絡先まで電話、メールでお申込み下さい。

TEL　〇三―三九九六―〇一七七

メール　sunsunmpure@ybb.ne.jp

特定非営利活動法人
ベーシックライフインフォメーション協会
会報第11号
発効日　平成二十八年七月一〇日
発行所　東京都練馬区石神井町六―十二―三
電　話　〇三―三九九六―〇一七七
発行人　田代　實範